

# 後援会だより

## 年頭にあたって



後援会会長

池邊 裕

(確/情報科学部)

あけましておめでとうござい  
ます。2011年の新春を迎えるにあ  
たり、後援会を代表いたしました。こ  
あいさつを申し上げます。

ここ数年の大学をとりまく話題と  
しては、「就職状況の厳しさ」が第  
一にあげられるのではないでしょ  
うか。子どもを学校に通わせる立場に  
ある後援会会員のみなさまの中  
にも、卒業後の進路が気かりである  
方も多いかと思えます。

ただ、私たちが改めて理解してお  
かなければならないことは、「就職  
仕事さがし」に絶対的な「正解」は  
ないということです。学生個人に  
合う職種や組織、場所などはまさに  
人それぞれです。とはいえ、社会を  
知れば知るほど、人生のいろんな場  
面で次から次へと現れる選択肢の  
数々に、若者たちは悩み、戸惑うこ  
ともあるでしょう。その時々の「選  
択」をうまく乗り切るための力こそ  
が、大学4年間で身に付けるべき力  
であると思えます。

近年、「学士力」や「就業力」と  
いった言葉が大学教育の場で使われ  
るようになっていますが、皮相的な  
ノウハウなどではなく、慈雨のごと  
く染み込んだ幅広い教養と深い専門  
性を基本に、どんな変化にも対応で  
きる柔軟な思考力、そして、自ら考  
え自分の意思で動くことができる行  
動力を持ち合わせることができれ  
ば、いかなる時代であろうとも、強  
く必要とされる「人財」になり得る  
ことができると思えます。

法政大学には恵まれた教育・研究  
施設はもちろんのこと、学生スポー  
ツや各種サークル、ボランティア組  
織など、知識を蓄え、人間力を鍛え  
るさまざまな環境が備わっていま  
す。後援会は、学生たちがこれから  
の世を支える魅力ある、また真に自  
立した人間として成長するよう、精  
神的支柱となりながら、その土台と  
なる大学環境のすべてをさらにより  
良きものにするために、後方から支  
援し続けていきます。

今後とも引き続き後援会活動へのご  
理解とご協力を賜りますようお願い  
申し上げますとともに、今年一年が、  
みなさまにとりまして実り多き年と  
なることを願っております。

写真で見える後援会(2010年4月~11月)

(内はお子さまの名前/学部)



5月15日(土) 幹事会/外濠校舎



6月5日(土) 総会/薩埵ホール



7月3日(土) 本部新役員多摩キャンパス見学会



5月16日(日) 六大学野球/明治神宮球場

6月20日(日) 函山支部新入生父母の集い/  
函山ビューホテル8月8日(日) 広島県支部総会・父母懇談会/  
ホテルグランヴィア広島

6月4日(金) 支部長懇談会/ボアソナード・タワー



6月26日(土) 役員研修会/日本出版クラブ会館



10月2日(土) 東海支部キャンパス見学会



11月6日(土) 学部長後援会役員懇談会/外濠校舎



11月6日(土) 支部長会議/外濠校舎



10月24日(日) 首都圏父母会懇談会/小金井キャンパス

# 総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会を開催



後援会副会長

久保田 寿男

(未佳/現代福祉学部)

12月1日(水)、総長・学内理事との懇談会を開催しました。この会は、学生の保護者で構成する後援会が、大学と学生生活や就職活動、今後の大学のあり方などについて意見交換するため毎年行っているものです。

当日は、大学から増田壽男総長をはじめ常務理事、理事など9人が、後援会は池邊会長をはじめ副会長、総務など運営委員と事務局12人が出席しました。懇談では、後援会があらじめ提出した「質問事項」に対して担当理事から説明があり、忌憚ない意見交換が行われました。

1. 多摩キャンパスの通学問題について  
多摩キャンパスのバス通学ですが、最寄3駅からの路線バスで2010年度より定期券・回数券の運賃補助を実施しています。八王子みなみ野駅からのシャトルバスについては2010年度で廃止し、2011年度には路線バスの補助率をさらに高めることも検討しますが、臨時便の増発を中心に実施したいと考えています。
2. 就職留年した場合の学費軽減について  
大学の学費は、大学に在籍(学籍

を作成し、学生証を発行など)することにより、授業科目の受講を含めたトータルのサービスを半年ないし1年間享受するための費用と考えられています。

今後の経済状況、就職内定状況により、来年4月以降、改めて特別措置などを導入するかどうか再検討する予定です。

3. SA制度など、入学前の概要説明について

受験生向けの「法政大学大学案内」では、説明が十分でないところも見受けられますので、編集方法や詳しい説明の記述が可能かどうか検討したいと思います。

4. 「大学による新入生父母等説明会(仮称)」の開催について

目的や具体的な開催方法については、今後、どのような方法がふさわしいか、実現に向けて後援会と協議を進めていきます。

5. 学生の正課外の活動への支援について

法政大学は、「自立型人材の育成」を教育理念とし、「21世紀市民社会の新たな創造に向けて、自由な発想で考え行動できる自立性と他者への思いやりを備えた人間力豊かな社会のリーダーを育成すること」を教育目標の一つに掲げ、実現させるため、全学的なサークル活動支援の仕組み

の整備、ボランティアセンターの活性化、「ピア・サポート・コミュニティ」を構築することを学生の支援に関する方針として定め、取り組みを進めています。

以上のほか、就職問題や現在の学生の状況などについて意見交換し、有意義な懇談会となりました。法政大学が、学生に対しての教育・学生支援について真剣に取り組んでいること、後援会の活動に対しても真摯に対応いただいていることに感謝したいと思います。ありがとうございます。



# 体育会応援6 「野球部」〜親からのメッセージ



加賀美 徹  
(希昇/人間環境学部)

## 「夢の実現」

「夢の実現」、これは希昇が小学校6年生の時の習字で書いたことばです。

物心付いたころから始めたキャッチボール、幼稚園の年長時には少年野球チームに無理を言っていてもらい、毎週末朝早くから自分の頭より大きなグローブを持って小学校のグラウンドで夕方まで、元氣一杯に泥まみれになって走り回っていました。

小学校6年生の時、県大会が修学旅行と重なりましたが、迷わず野球を選びました。結果は、あっけなく一回戦敗戦。大泣きする希昇を旅行先の日光まで送り届けたのも今となっては良い思い出です。

中学校ではシニアチームに入り硬式野球を始めました。ポジションはキャッチャーでした。監督には、「大学で野球ができるように長い目で頑張れ」といつも言われていたものでそれをふまえた高校選びを考えました。周りのチームメイトたちの中には高校からのオファーがありましたが、希昇にはそんな話もなく、色々考えた結果、桐蔭学園を受験し、合格しました。

そこでの野球部監督との出会いが

希昇の人生の転機だったように思います。本人は、高校でもキャッチャーとして頑張るつもりでしたが、手足の長さや身体の柔らかさ、長身だったこともあり、ピッチャーとしての新しい道を薦められました。喜んで臨んだピッチャーとしての練習でしたが、チームメイトのレベルの高さについていくのに苦労し、投げたは打たれ、コントロールも悪く、一年間はまったく物になりませんでした。

しかし何となくピッチャーらしくなってきたのが2年生の夏、県大会の準決勝でエースの先輩から任せられた延長戦、9回から13回まで毎回訪れるサヨナラのピンチを熱投で抑え、結局13回にサヨナラ負けとなり、マウンドで泣き崩れましたが、この経験がひと回りもふた回りも大きくなってくれました。そして2年秋からはエースとして活躍することができました。

その後、野球部監督の母校であった法政大学に入学が決まった時は本当にうれしく、また、東京六大学野球の高いレベルで野球ができることが夢のようでした。

大学1年生の春には、オープン戦の途中でひじの靭帯を故障し、1年間は一球も投げることなく終わりました。やっと治って参加した2年生



小学校一年生の頃、土・日・祭日は、早朝から夕刻まで野球ごんまい

の冬のキャンプで今度は内転筋を故障しましたが、完治しないまま春6試合、秋9試合を投げたことは、その後の希昇の道に大きな結果を残すことができました。

3年生の春は途中から左脇腹の肉離れで離脱してしまい、チームが全日本大学選手権で優勝をした時は、応援スタンドで大泣きしていました。

4年生の最後の一年は、故障なく無事に一年間投げられ、親としては一番うれしいことでした。

今回、地元横浜ベイスターズにドラフト2位という高い評価で指名されて、夢だったプロ野球選手になったことは、小学校の時の習字で書



2010年第5回世界大学野球選手権大会

いた「夢の実現」になったわけ、親としてはこれ以上の喜びはありません。ただプロ野球選手になれたことがゴールではなく本当の意味でのスタートラインに立ったばかりであり、これまで支えていただいた数多くの人たちに、感謝の気持ちを忘れずに一日でも長く野球人生を続けることが恩返しだと思ひ、がんばってくれることを、ただ願うだけです。

いつの頃からか、私も妻も希昇に対して、自分の子供というより、一人のファンとして応援しているような気がしています。

これからも、夫婦で応援に行けることを本当に幸せに思っています。

## 常任参与・参与と後援会運営委員との懇談会を開催

後援会総務

笠原 和子

(ゆかり／法学部)

11月11日(木)、常任参与・参与との懇談会を、大学より鈴木文夫夫人 統括本部長・総務部長はじめ担当者 11人に出席していただき開催いたしました。この会は、後援会が支出する「学生支援費」の今年度執行状況と次年度予算案などについて協議するため行われたものです。後援会活動の中でも学生への支援は基本となるもので、学生支援費は後援会予算総額において最も大きな割合をしめております。まず、大学から今年度の執行状況と10月13日より改正となりました後援会奨学金給付規定改

正についてのご報告をいただきました。続いて、大学との齟齬が生じたという、齊藤副会長より学生支援費についての基本的な方針の説明を行いました。学生支援費は、雑誌「法政」の作成費補助や、図書・高額機材の購入、学生の諸活動への補助、リーディング・ユニバーシティ募金など、年間約1億円の予算で後援会が法政大学の事業を支援するものです。次年度においては、課外プログラムと学生センターでのピアサポートや、大学での学び方を指導する図書館のラーニングコモンズなど、新しい動きを積極的に支援し、大学からの補助に限られる体育会運営費の増額、自主マスコミ講座への一部補

助、各キャンパスに司会台の寄贈などを行います。大学・後援会双方で年間予算と執行予定について確認いたしました。今後とも大学と定期的な意見交換を行い、さらなる大学の発展のため、学生の生活環境の改善のため、学生支援費を有効に使用していただきたいと思います。



## 郡山支部「第54回オレンジの集い」へ!

郡山支部会計

和知 敬次

(篤志／経済学部)

12月4日(土) 東京、メルパルクホールにて「第54回オレンジの集い」が開催され、郡山支部役員2人で観てきました。

2年前の夏季合宿から縁がある応援団、今年の夏季合宿以来の再会でしたが1年生がたくましく成長していました。

「チアリーディング部(ジェニーズ)」第三部「リーダー部」の3部構成で行われました。演目を観ながら、夏季合宿でのつらく厳しい練習風景がオーバーラップして感慨深いものがありました。また、4年生は最後の活動ということで演奏や演技、力技の中に4年間の思いがステージに込められ輝いていました。最後に、会場全員総立ちによる「チャンス法政」の大合唱でフィナーレを迎え感動に浸りながら東京を後にしました。



### 「携帯メール情報」の配信案内

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフト甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きましょう。配信ご希望の方は、上記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールア

### 後援会ホームページのご案内

URL: <http://www.hosei-koenkai.org/>

また、法政大学のホームページを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。